

楽しく学ぶ日本事情

二. 行事編

1. 日本の年中行事
2. 日本の地域活動と行事
3. 日本の国際交流活動
4. 日本の学校行事と PTA 活動
5. 日本社会と人間関係



1. 日本の年中行事

https://iemone.jp/article/lifestyle/iemone_editors_98054/ 1月

1月 睦月（むつき）……和風月名

正月：1月1日から1月7日の松の内や1月15日の小正月までを指す。「年神様」を各家庭でお迎え、さまざまな行事が行われます。



初日の出、おせち、おとし、雑煮、年賀状、お年玉、初詣、書き初め、初夢など盛り沢山です。新年の五穀豊穡や家内安全を願います



七草粥：1月7日の朝に七草のおかゆを食べ、1年間の無病息災を祈る。
鏡開き：1月11日、正月の年神様が宿っていた鏡餅を食べ、無病息災を願う。
小正月：1月15日は「小豆粥」を食べ、無病息災を願い、「餅花」で豊作を祈る。



おせち料理の意味と由来 <https://marche.otoriyose.net/article/34620>



毎年、お正月になると振る舞われる「おせち（御節）料理」ですが、そもそもおせち料理はお正月だけのものではありませんでした。元旦や五節句などの節日を祝うため、神様にお供えしていた“おせちく（御節供）”が、江戸時代頃になると庶民の間に広がり、一年のうちで一番大切にされていたお正月にいただく「おせち料理」へと変わっていったようです。

おせち料理に使う食材は、元々は収穫のご報告や感謝の意を込め、その土地で獲れたものをお供えしていたようですが、食文化が豊かになるにつれて、山海の幸を盛り込んだご馳走になっていきました。また、お正月三日は、かまどの神様にお休みいただくことが言われるようになり、今のような保存も効く食材や調理法となっていきました。

各おせち料理（具材）の意味



おせち料理の具材は、それぞれの地域や家庭でも異なりますが、その種類は20～30ほどあると言われていています。具材にはそれぞれ意味や願いが込められており、一年の始まりであるお正月に、その意味や願いとともにいただく大切な料理となっています。

黒豆：まめに働き、まめに健康に暮らせませすようにという願いが込められています。また、あえてシワが出るように煮て、シワができるほどの長寿を願うという意味もあります。

数の子：多くの卵が付いている数の子は、子孫繁栄や子宝に恵まれることを願う食材です。また、ニシンの子なので「二親健在」という意味も含まれています。

海老：海老はその丸く曲がっている姿から、腰が曲がるまで長生きできるような願いが込められています。また、身が赤く美しいことから縁起物や魔除けの意味もあります。

れんこん：穴があいていることから、将来の見通しがきくようにという祈りが込められています。また、極楽浄土の池には蓮の花が咲くことから、穢れのないことを現しています。

里芋：里芋は子芋がたくさん付くことから子孫繁栄を表しています。

ごぼう：ごぼうは根を土中にしっかり張ることから、家族の土台がしっかりすることや家業が土地に根付くことの願いが込められています。

栗きんとん：栗は「勝ち栗」と呼ばれる縁起ものです。「金団」と書き、黄金色で縁起がよく、金銀財宝を連想させることから蓄財に繋がるとされています。

伊達巻：「伊達」とは華やかという意味があり、昔の伊達者（しゃれ者）たちの着物に似ていたので、伊達巻と呼ばれるようになったと言われています。巻き物が書物や掛軸に通じることから、知識や文化の発達への願いが込められています。

錦卵：卵の黄身と白身の2色が、金と銀に例えられており、“2色”を「錦」と語呂合わせしているとも言われています。ハレの日の食材にぴったりです。

筑前煮：様々な具材を一緒に煮ていることから、家族一緒に仲良く結ばれることの願いが込められています。具材は縁起物が多くなります。

鯛：鯛は「めでたい」の語呂にかけられています。また、姿も味もよいので、江戸時代から「人は武士、柱は檜（ひ）の木、魚は鯛」と言われ、めでたい魚として祝膳には欠かせないものとなっています。

紅白なます：紅白でめでたく、祝いの水引にも通じています。また、根菜のように根を張るようにとの願いが込められています。

田作り：田作りで使うイワシが畑の肥料だったことから「田作り」「五万米」（ごまめ）と呼ばれ、豊作祈願の料理とされています。

1月の行事「成人の日」



国民の祝日の一つです。満 20 歳を迎えた青年の成人を祝い、式典を行ったり、記念品を贈ったりする自治体が多く、当日は式典に参加するために晴れ着を着ます。2000 年より、1月の第 2 月曜日。民法の改正のより、2022 年 4 月 1 日から年齢が 18 歳に引き下げられた。

「成人式」の由来：

奈良時代に起こった「元服（げんぷく）」に由来しています。男子は、数え年で 12 歳～16 歳ぐらいで「元服」の儀式を行い、髪を結い、服を改め、公家では冠、武家では烏帽子を着用しました。また、幼名から実名を名のります。女子の場合は、13 歳ぐらいで「髪上げ」「裳着（もぎ）」の儀式が行われ、髪を結って裳を着用します。

出生、成人、結婚、死など、人が成長する過程で行われる儀礼を「通過儀礼」といいます。人生の通過儀礼として、社会的に大人になったことを祝うのが「成人式」です。成人式は「冠婚葬祭」の「冠」にあたり、一般的には慶弔の儀礼や年中行事をさしますが、本来は四大儀礼である成人式、婚礼、葬儀、先祖の祭祀（お盆や法事）をさします。

2月 如月（きさらぎ）

2月の行事

その一 2月 14日：バレンタインデー

<https://www.takashimaya.co.jp/shopping/gift/story/A15970/A18001/>



欧米のバレンタインデーでは、恋人や友達、家族などがお互いにプレゼントを贈り、感謝の気持ちと愛を伝えるのが一般的です。日本でバレンタインデーが盛んになったのは、昭和 30 年代の後半。昭和 40 年代、女

性が男性にチョコレートを贈るといふ、現在の日本型バレンタインデーの様式も定着し始めました。

この「チョコレートを贈る」風習の始まりについて、一説によると、昭和10年に神戸のモロゾフ製菓が、外国人向け英字新聞『ザ・ジャパン・アドバタイザー』で、「あなたのバレンタインにチョコレートを贈りましょう」といふ広告コピーを掲載したのがバレンタインチョコの始まりだとか。

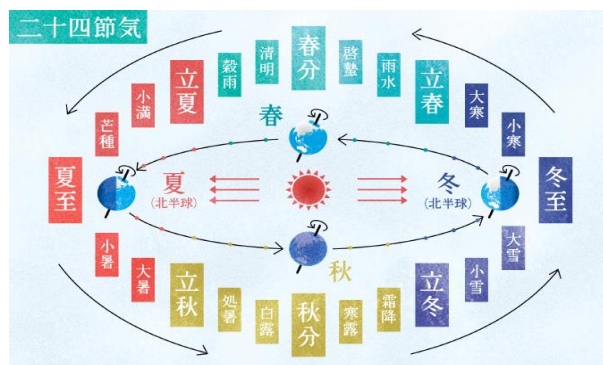
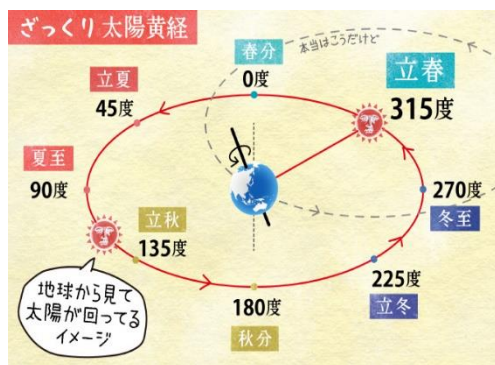
今は女性から男性にチョコレートを贈るだけでなく、友達に贈る「友チョコ」や、男性から女性に贈る「逆チョコ」もあります。

その二 節分：

<https://www.jalan.net/news/article/518773/>



節分は、立春（2023年の立春は2月4日）の前日、冬と春の変わり目であるこの時期は邪気が入りやすいと考えられていたため、鬼を払う行事が生まれました。最近、豆まきと恵方巻を食べるのが恒例です。



古代中国では冬至日を1年の区切りにしていましたが、だんだんと「春から1年が始まる」といふ考えになりました。国民に季節の運行を知らせることは、王の大事な役目であり、冬よりも春の方が重要な季節だったので。四立の前日が「節分」。節分は1年に4回あります。その中で、1年の終わりであり、大みそかともいえる立春の前日が、今も豆まきなど節分の行事を行う大事な日として残っています。

節分に恵方巻きを食べるのはなぜ？ <https://hugkum.sho.jp/198924>

日本では昔から、長いものは縁起がいいと考えられています。大晦日に年越しそばを食べるのも、そばの麺が細くて長いことから、「何歳になっても元気で過ごせるように」と長寿や延命を願う意味があります。そのため、恵方巻きのような巻き寿司も縁起がいいものと考えられているようです。

また、恵方巻きには、七福神にあやかって海の幸や山の幸など、豪華な7種類の具材を入れることで幸運を呼び込もうという狙いがあるのでしょうか。

恵方巻きを1本丸かじり（丸かぶり）する理由

恵方巻きは、切らずに1本をまるごと頬張るのが習わし。しかも食べている途中は、人と話したりせず、黙って1本を食べきらなければなりません。これは、一気に食べることで幸運を逃さないようにするため。


恵方巻きを包丁で切ると、「縁が切れる」と考えられています。そのため、せっかくの運をしっかりと手に入れられるよう、1本を一気に食べきることが大切なのです。

3月 弥生（やよい）

3月の行事

その一 3月3日：ひな祭り

ひな祭りのポイント一覧 <https://mamanoko.jp/articles/29011>

<p>ひな祭り</p> 	<p>古代中国の陰陽道では、1・3・5・7・9の奇数が重なる日にお供えやお祓いをする風習があった。3月3日の上巳（じょうし）、5月5日の端午、7月7日の七夕などがそれです。子どもが元気で幸せに成長できるようにお祝いする日。本来は男女共通の行事であった。</p>
<p>雛人形：子を守る</p>	<p>【七段飾り】：一段目：男雛と女雛、二段目：三人官女 三段目：五人囃子（ごにんばやし）、四段目：隨身（ずいじん、ずいしん）、五段目：仕丁（しちょう）、六段目・七段目：お化粧箱や御所車、駕籠などの嫁入り道具。</p>

ひな祭り



古代中国の陰陽道では、1・3・5・7・9の奇数が重なる日にお供えやお祓いをする風習があった。3月3日の上巳（じょうし）、5月5日の端午、7月7日の七夕などがそれです。子どもが元気で幸せに成長できるようにお祝いする日。本来は男女共通の行事であった。



雛あられ



白（雪）緑（木々の芽吹き）桃（生命）を表し、子どもの健やかな成長を願う食べもの。雛壇に飾られる菱餅



（ひしもち）と同じ意味

ちらし寿司



彩りが良く、縁起の良い具材を並べてお祝いの席にふさわしいことから、ひな祭りの定番料理になった。

- ・エビ：腰が曲がるまで長生きできるように
- ・レンコン：遠くまで見通せるように
- ・豆：健康でマメに働けるように

色とりどりの具材には色々な願いが込められています。

はまぐり



はまぐりの貝殻は対でないとぴったり合わないことから、良縁を意味する。



その二 3月14日ホワイトデー：歴史は今から約50年前にさかのぼります。

1970年代	バレンタインデーが定着し、お返し商品の販売店舗が出現
1978年	全国飴菓子工業協同組合がホワイトデーを発案
1980年	ホワイトデーキャンペーンをデパートや広告で実施
2000年以降	義理・友チョコが流行り、ホワイトデーのお返しも多様化

3月14日はバレンタインのお返しを贈るホワイトデー。

スイーツやコーヒー・紅茶、お酒、雑貨、アクセサリなど、本命か義理チョコか、相手や予算に合わせてお返します。

4月 卯月（うづき）

お花見（関西：4月上旬）：domani.shogakukan.co.jp/467876



お花見の歴史： 起源は奈良時代

日本で花を觀賞する行事が生まれたのは**奈良時代**だと言われ、中国から日本に伝わったという説が有力です。ただし当時は**梅を鑑賞するのが主流**でした。万葉集にも梅を詠んだ歌が多く残されており、その数は桜を詠んだ歌の倍以上であることから、当時の人気ぶりがうかがえます。その後、日本独自の文化が重要視されるようになり、梅から桜を鑑賞する形に変化していきました。

貴族から武士、そして庶民へ

貴族の行事だったお花見は、鎌倉時代になると武士にも広まっていきました。中でも歴史に残る盛大なお花見が、豊臣秀吉により行われたもの。徳川家康などの有名な武将を総勢 5000 人招いた「吉野の花見」と、醍醐寺に 700 本もの桜を植えて行われた「醍醐の花見」です。

庶民もお花見を楽しむようになったのは、江戸時代。その立役者とされるのが徳川家光と吉宗で、家光は上野に、吉宗は隅田河畔や飛鳥山に多くの桜を植えて名所にし、にぎやかな宴会型のお花見を奨励しました。こうして身近な場所できれいにお花見ができるようになり、春の娯楽として広がっていきました。

お花見で豊作祈願

お花見には、風流なお花見とは異なるルーツもあります。それは、農民の間で行われていた「豊作祈願」のお花見で、春になると山から里へおりてくる田の神様をお迎えするという行事です。

お花見定番の食べ物や歴史



三色団子：「花より団子」と言われるように、お花見といえば花見団子。とくに、桜色・白・緑色の団子がそれぞれ 1 個ずつ串にささった「三色団子」が定番です。雪の白で冬の名残を、桜色で春の喜びを、よもぎの緑で夏の兆しを表しています。

桜餅：小豆餡が入ったお餅を桜の葉の塩漬けで包んだ和菓子で、隅田川沿いの長命寺の門番が、桜の落葉に悩まされて考案したと言われてしています。

お花見弁当：

お花見で食べる弁当が「花見弁当」です。江戸時代にも花見弁当があり、「提重（さげじゅう）」と呼ばれる道具が使われていました。提重は料理だけでなく食器や酒器を組み入れた重箱で、手に提げて持ち運びできるようになっています。

日本三大桜

国の天然記念物にも指定されている「日本三大桜」は、大正時代に制定された「史跡名勝天然記念物保存法」によって選ばれた桜の名所です。

福島県の三春滝桜



山梨県の三春滝桜



岐阜県の淡墨桜



樹齢 1000 年以上

樹齢 1000 年以上

樹齢が 1500 年



4 月入学式、入社式：

<https://sk-imedia.com/23733>

<https://www.kaonavi.jp/dictionary/employment-ceremony/>

小学校の入学式や始業式は、4月4日～8日に行われます。同じ地域にある小学校や中学校、そして高校では入学式のタイミングをずらすように組まれているので、小中高で開始のタイミングは異なっています。これは小中高の入学式に参加する親御さんを考慮したものであり、今でも変わっていません。

始業式があると「クラス替え」もありますので、学生さんは色々と一喜一憂することになります。このクラス替えは実はリーダーシップがある子はできるだけ別けるようにしたりとか、成績が均等になるようにしたりとかルールが存在しているのです。また、つるんで悪いことをしているグループは絶対に一緒にならないように別けられているとも言われています。

入社式は、企業が新卒社員を正式に迎え入れるための式典です。同期入社の新卒社員を一同に集めて、経営陣による訓示・新卒社員の顔合わせ・企業理念の浸透などを行う式です。日本では毎年4月に行われるのが一般的です。税金の区切りや社会保険の手続きなど新卒社員の各種書類は、年度始めに合わせて4月1日となっています。

入社式を実施する目的は、入社式の目的は、新入社員に社会人として、また企業の一員としての自覚を持たせることにあります。入社式が終われば社会人となるので、いつまでも学生気分では困ります。企業の一員として責任を持った行動ができるよう、意識を切り替えるためにも入社式を行います。そのほか、新入社員が交流を深めるなどの目的もあります。

5月 皐月（さつき）

節句とは、季節の変わり目に無病息災・豊作・子孫繁栄などを願って、お供えものをしたり邪気払いを行ったりする行事のことをいいます。

五節句とは、奈良時代に中国から伝わった、奇数が重なる日をめでたいとした考

えです。江戸時代に幕府が節句を元に公的な祝日とした 5 つの節句が現代まで残っています。



5月5日 端午の節句は、男の子の成長を祈る行事のことです。

端午とは、月初めの「午（うま）の日」という意味ですが、「午」と「五」の読み方が同じため、5月5日を端午の節句としたそうです。

中国では、5月初めの午の日に薬草で疫病や病魔を祓う習わしがありました。菖蒲を煎じて飲み薬草として使われていたことから「菖蒲の節句」ともいいます。菖蒲＝尚武ということから、男の子のお祭りとなされ、現代では男の子の健やかな成長を願う行事とされています。

初節句の祝い方



飾り物に関してですが、男の子の場合は「兜（五月人形）」や「鯉のぼり」を飾ります。兜（五月人形）には、「男の子を厄災から守る」「立派に成長する」という2つの願いが込められており、鯉のぼりは「環境の変化に流されず、自分の力で歩いていく子どもの成長」が象徴されているようです。

食べ物に関しては、「ちまき」や「柏餅」を食べる習慣があります。従来、ちまきは解毒作用があり「魔よけのお守り」と称されていた菖蒲（しょうぶ）の葉に包まれていました。現在はほとんどが笹に包まれていますが、菖蒲の葉に包まれたちまきには、厄除けの効果があると信じられていたのです。

また「柏餅」を包む柏の葉については、「子孫繁栄」の意味があると考えられています。新しい芽が出るまで古い葉が落ちないという特性からきているようです。他にも「出世魚（しゅっせうお）」として考えられているブリ、「勝男」という言葉とかけた鯉、「まっすぐに伸びる子ども」を象徴している「たけのこ」も、節句の行事には縁起が良いと考えられています。



5月の第2日曜日：母の日

1908年、アメリカで平和活動に貢献した亡き母を追悼するため娘が教会でカーネーションを配ったことが始まり。カーネーションは聖母マリアの涙から生じた花で、花言葉は「母の愛情」。

6月 水無月（みなづき）

6月の第3日曜日は「父の日」

父の日は1909年のアメリカで、6人の子を育て上げたシングルファーザーを敬愛する末娘が「母の日があるなら父の日も」と牧師協会に嘆願したことが始まりです。



7月 文月（ふみづき）

7月7日：七夕 <https://hoiclue.jp/3147.html>



毎年7月7日は七夕。

七夕は、織姫と彦星が1年に1度だけ、天の川で会える日とされています。

七夕（たなばた）に関する言い伝え

昔あるところに、神様の娘の織姫と、若者の彦星がいました。

織姫は機織りの仕事をしていて働き者。彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。やがて2人は結婚しました。

すると、今まで働き者だった2人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなってしまう。怒った神様は、2人の間に天の川を作って離してしまいました。悲しみにくれた2人は泣き続けました。それを見た神様は、前のようにまじめに働いたら、1年に1度だけ、2人を会わせると約束しました。それから2人は心を入れ替えて一生懸命働くようになったのです。そして、2人は年に1度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が七

夕とされるようになりました。（その他にも、諸説言い伝えがあります。）七夕の過ごし方

七夕飾り：短冊にお願い事を書く

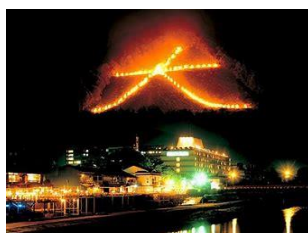
短冊とは、細長く切った紙や木のこと。七夕には、この短冊に願い事を書いて笹に飾ります。昔の人が、織物の上手な織姫のように（織姫にあやかっ）、
「物事が上達しますように」と、お願い事をしたのが始まりだと言われていま
す。笹の葉に飾ると、織姫と彦星の力で願いが叶えられ、みんなを悪いものか
ら守ってくれるという言い伝えがあるのだそうです。

8月 葉月（はづき）

お盆（8月13～16日）：先祖の霊を家に迎え供養し、感謝を捧げる行事です。
お釈迦様の弟子が地獄に落ちた母親を救うためから起源します。ご先祖様を祀
る際、「盆棚」を作り、キュウリやナスで「精霊馬」を作ります。

13日の「迎え火」から16日の「送り火」があります。

	お盆	お彼岸
意味	ご先祖様が帰ってくる期間	仏教徒として正しく過ごしながら、ご先祖様に想いを馳せる期間
回数	年に1回（夏）	年に2回（春・秋）
時期	7月13日～16日（地域によっては8月）	春彼岸：春分の日前後3日間 秋彼岸：秋分の日前後3日間
やること	精霊棚を飾る 迎え火・送り火を焚く 施餓鬼会・盂蘭盆会 お墓参り	お仏壇、仏具の掃除 彼岸会 お墓参り



にほんまつり 日本のお祭り

<https://www.ana.co.jp/ja/jp/japan-travel-planner/japanese-festival-omatsuri/0000001.html>

地域、四季それぞれに魅力の溢れる日本。日本人は「八百万（やおよろず）の神」と言って、すべてに神が宿ると信じてきました。自然と神様に感謝し、生きることを喜び、コミュニティを育てるために行ってきたのが日本のお祭りです。



お神輿：

お祭りの時に神様が地域内を回る為に乗る「輿」（乗り物）のこと。半纏と呼ばれる祭り衣装を身にまとった担ぎ手たちが、神輿を肩に担ぎながら神社近隣の地域を回ります。災厄や穢（けが）れを吸収して清めたり、人々の豊作祈願や願いを聞き入れたりするために行われると言われています。

山車・太鼓台：

自然の山岳を模して作られたもの。神様は山岳や山頂の岩や木に降臨すると感がられたため、山車はお祭りのあいだ神様を招き入れ、滞在していただくために作られました。



火祭り：

世界中の多くの文明において、火には特別な力が宿ると信じられてきました。日本も火による浄化、火勢による霊力の強化などを求め、様々な火祭りが誕生しました。その歴史は古く、1000年以上続くものもあります。

盆踊り：

仏教に由来する「盆（ぼん）」の時期（7月・8月）に先祖を供養するための踊り。日本全国に1,000以上の種類があると言われます。広場の中央にやぐらを立て、やぐらの周囲を回りながら音頭にあわせて踊る形式が一般的。「日本三大盆踊り」は、秋田県の「西馬音内盆踊り」、岐阜県の「郡上おどり」、徳島県の「阿波踊り」がある。



裸まつり：

なぜ、裸で行うのか？それは、産まれたままの姿となり清浄無垢の姿で神との交渉を行うためと言われています。その多くは、大晦日や小正月、夏の祓（はらえ、はらい）の祭りなど、節目の時期に行われます。

ねぶた：

本州最北端、青森県各地で行われる夏祭りで、人形型または扇型の張りぼてを載せた山車を引いて行われます。もともとは、鎮魂の意を込めた灯籠流しをルーツとしています。歴史や神話をテーマにした勇壮な山車が夜空に浮かぶ様子は圧巻です

日本花火：

歴史は江戸時代（西暦1600年代）までさかのぼり、古くから庶民に親しまれています。神聖な火の力で、慰霊や鎮魂を行うという意が込められています。全国で、大曲の花火（秋田県）、隅田川花火大会（東京都）、長岡花火（新潟県）などが有名です。



綱引き：

これは、参加者が二手に分かれて、藁でできた長く太い綱を引く行事です。元来、雨乞いのために行われていた儀式が原型になっており、縄は巨大な大蛇や龍を模しています。蛇は雨が降ると現れるため、水神の使いとして考えられてきたためです。有名なのは那覇大綱挽まつり。「米藁で製作された世界一の綱」としてギネスに認定登録。

来訪神：

写真は秋田県の神様「なまはげ」です。日本各地にいる来訪神の一つ。2018年、「来訪神 仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。これらの来訪神は神様の使者であり、年に一度、正月などの節目に人間の世界に来訪するとされています。見た目は恐ろしいのですが、怠け者を戒めたり幸福をもたらしたりすると言われています。

9月 長月（ながつき）

「敬老の日」

<https://allabout.co.jp/gm/gc/220762/>

1947年に兵庫県多可郡野間谷村（現・多可町）で行われた敬老行事をきっかけに、9月15日を「としよりの日」とする運動が全国に広がりました。その後、祝日法改正によって、2003年から「敬老の日」が9月の第3月曜日に変更されました。

9月15日の由来は、593年に聖徳太子が身寄りのない老人や病人のための救護施設「悲田院」を設けた日や、「養老の滝」伝説にちなみ、農閑期の9月15日に敬老行事が開催されたからだといわれます。なお、「母の日」や「父の日」は外国発祥ですが、「敬老の日」は日本発祥で祝日にもなっています。



長寿祝いの年齢、名称、読み方

■還暦（かんれき） 60 歳

還暦で生まれた年の干支にかえってくるため、生まれ直すととらえて祝福し、赤ちゃんや産着にちなんで赤いちゃんちゃんこと頭巾を贈り、長寿や無病息災を祈る風習となりました。

■古希（こき） 70 歳 杜甫の詩句「人生七十古来稀（希）なり」に由来。

■喜寿（きじゅ） 77 歳 喜の草書体が七十七と見えることに由来。

■傘寿（さんじゅ） 80 歳 傘の略字は八十と書くことに由来。

■米寿（べいじゅ） 88 歳 米の字は八十八と書くことに由来。

■卒寿（そつじゅ） 90 歳 卒の略字は九十と書くことに由来。

■白寿（はくじゅ） 99 歳 百から一を引くと白になることに由来。

■百寿（ひゃくじゅ、ももじゅ）／紀寿（きじゅ） 100 歳

100 歳は 1 世紀になることに由来。

中秋名月：<https://wa-gokoro.jp/event/annual-events/378/>



中秋の名月とは、旧暦（太陰太陽暦）8月15日の夜に見える月のことです。現在の暦（新暦）ですと、9～10月頃にあたります。

お月見の起源：起源は古代の中国です。現在では「中秋節」と呼ばれ、中国の祝日にもなっています。この風習は平安時代の日本にも伝わり、貴族たちが月見の宴を催すようになりました。なお、庶民の間にまで浸透したのは、江戸時代のことです。

この日の月を「芋名月」といって、里芋をお供えする収穫祭が行われていました。里芋は1株でも子芋・孫芋……と際限なく増えていくので、子孫繁栄の縁起物とされてきました。その他、旬の果物や野菜などをお供えすることもあります。

中秋の名月は「一年で最も美しい月」と言われています。その理由として、月の高さが見上げるのにちょうどいい、秋は空気が澄み渡り、月が鮮やかに見えるだからです。満ちては欠ける月に、風情のある呼び名が付けられています。

呼び名	月齢	別称など
新月	0	朔
織月	1	二日月・既朔
三日月	2	初月・若月・眉月・蛾眉
上弦の月	6	弓張り月・半月
十日夜の月	9	《お月見の慣習あり》
十三夜月	12	《お月見の慣習あり・満月の次に美しい月とされる》
小望月	13	幾望・待宵の月
満月	14	望月・十五夜・三五の月・仲秋の名月・芋名月・望
十六夜	15	既望・不知夜月
立待月	16	
居待月	17	
寝待月	18	臥待月
更待月	19	亥中の月
下弦の月	22	二十三夜月・弓張り月・半月
有明月	25	暁月
三十日月	29	晦日

10月 神無月（かんなづき）



スポーツの日：

国民の祝日の一つ。1964年東京オリンピックの開会式が10月10日を「**体育の日**」から由来します。

2020年から「**スポーツの日**」に改称、10月の第2月曜になりました。



10月31日：ハロウィンの日

今や日本でもビッグイベントとして定着したが、もともとは紀元前5世紀頃のケルト人の祝祭でした。

収穫を祝うと共に悪霊を追い払う祭りです。

11月 霜月（しもつき）



七五三：3歳の男女、5歳の男子、7歳の女子が行う「通過儀礼」。知名度が高い行事です。医療の発達が未熟で衛生面もよくなかった昔は、子どもが無事に育つことは大きな喜びであり、親として健やかな成長を願わずにはいられないものでした。それゆえ、3歳、5歳、7歳の節目に成長を神様に感謝し、お祝いをしたことが七五三の由来です。



11月23日：**勤労感謝の日**、国民の祝日。起源は宮中行事の「新嘗祭」。天皇がその年に収穫された穀物を神様に捧げてから自らも食し、収穫を祝って感謝する宮中行事です

12月 師走（しわす）



12月13日：正月事始め

「すす払い」の日。お正月の準備として、大掃除を始める日です。

12月中旬から下旬：歳の市（としのいち）

寺社の門前や境内で催される縁日のこと。正月飾りから食品、日用品まで、正月準備の必需品を扱う露店で買い物をする人々で賑わいます。有名なのは年末の風物詩「羽子板市」です。



12月25日：クリスマス。日本でも年末の大型イベントとして定着。本来は「イエス・キリストの降誕を祝う祭」です。クリスマスのツリーを飾り、七面鳥やローストチキン、クリスマスケーキを用意し、クリスマスの食卓を楽しみます。



正月飾り：門松、しめ縄、しめ飾り、鏡餅など。

12月31日：大晦日（おおみそか）。長寿や開運を願う「年越しそば」、煩惱を払う「除夜の鐘」、年をまたいで参詣する「二年参り」など、大晦日ならではの風習もあります。お正月番組として、NHK「紅白歌合戦」があります。

2. 日本の地域活動と行事

日本には季節折々の年中行事があり、各地域（都道府県から市町村まで）には、各自の活動と行事が繰り広げられています。ここで、その目的と効果などを実例で紹介します。

<https://tjniigata.jp/life/202104chiiki/>

(新潟市を例に) みんなで学ぼう！ 今できる地域活動を



私たちの日常生活は、地域コミュニティ協議会や自治体・町内会など、地域の皆さんの活動によって支えられています。「コロナ禍」でも適切な感染症対策を行なうことで、感染リスクを抑えて安全に活動することができます。ということで今回は「地域活動」について学んでみましょう！

実際に地域活動に取り組んでいる、湊地区コミュニティ協議会の会長・三條澄さんに話を伺ったり、どんなことをしているのかの活動例などを紹介したりしていきます。

【地域のつながりと安心・安全のために】

●地域活動ってどんな活動？

「自分たちの地域は自分たちで住みやすくより良いものにしよう」と地域の皆さんが自主的・主体的に行っている活動です。福祉、防災・防犯、教育、環境

美化などの地域課題の解決や、住民同士のつながりづくりなど、地域の安心・安全に欠かせない取り組みを行っています。

●誰が活動しているの？

地域コミュニティ協議会、自治会・町内会、小・中学校のPTAやNPOなど営利を目的としない団体が、地域活動の主な担い手です。

■地域コミュニティ協議会

地域の課題は地域で考え解決するという「住民自治」の考え方にに基づき、自治会・町内会、PTAなどの構成団体が情報を交換・共有し、話し合って意思決定を行い、地域活動に反映・実践しています。おおむね小学校または中学校区ごとに結成されています。

■自治会・町内会

日常生活で起こるさまざまな問題について、いわゆる「隣近所」で共に考え解決し、より良い地域社会をつくる活動をしています。日常的にあいさつする、顔や名前を覚えられる範囲の最も身近な住民で組織された団体といえます。

■活動例

多世代交流会の開催、防犯パトロールの実施、防災訓練の実施、放課後児童クラブの運営、あいさつ・声掛け運動の推進、祭りなどのイベントの開催、地域の茶の間の開催、緑化の推進、コミュニティセンターなどの指定管理受託など

■活動例

防犯灯の維持管理、ごみ集積場の管理、地域美化（側溝清掃など）、生活情報の回覧・配布、子ども会・老人会などの運営、納涼会・新年会などの親睦行事など

【気軽にできる活動】

地域活動には気軽にできるものがあります。感染症対策をしながら今できることを行い、より良い地域社会にしていきましょう。



【地域活動に補助】

地域課題の解決を図る活動などに補助金を交付しています。感染症対策用品の購入経費には増額して補助します。対象団体は地域コミュニティ協議会、自治会、その他の団体です。

【地域活動再開に向けリーフレットと動画を作成】



地域の皆さんが新しい生活様式に基づき安心して活動できるよう、活動の事例ごとに具体的な対策や注意点を紹介しています。また、感染症対策の専門家による研修会の動画などを公開しています。

3. 日本の国際交流活動

https://haa.athuman.com/media/japanese/?doing_wp_cron=1677744110.4092841148376464843750

国際交流による個人と地域のメリットとは？



国際交流の定義とその種類

「国際交流」とは、他国の人と交流することでお互いの国についてよく知ること、またはそのための活動を指す言葉です。ときに「異文化交流」と呼ばれることもあります。

社会のグローバル化が進むなかで、国レベルの関係者同士での外交だけでなく、一般市民が交流して、異文化に対する理解を深める必要性も高まってきました。日本が今後も世界に開かれた社会であり続けるために、国際交流はますます重要な取り組みになっていくでしょう。

国際交流の具体的な活動例には、次のようなものがあります。

- 姉妹都市交流
- キャンプ誘致
- 多言語による生活情報発信
- 教育交流
- 交換留学
- ワーキングホリデー
- 海外旅行 など

このように、一口に「国際交流」と言っても、そこには幅広い活動が含まれます。地域で開催される交流会のイメージが強いかもしれませんが、留学や旅行中におこなうコミュニケーションも、立派な国際交流の一つです。

国際交流の6つのメリットとは？



① 言語力が養われる

国際交流では、日本語とは異なる言葉を用いる人々と交流することになります。「どうにかして相手とコミュニケーションを取らなければ」という状況に身を置くことができるため、自然に他国の言語を習得できるのです。実際、留学や旅行先での外国語習得は、日本国内の英会話教室で学ぶよりも効率が良いとされています。

他国の言語を使えるようになれば、海外の人とつながりを得る機会がますます増えていきます。言語を知るとは、多種多様な文化や価値観に対するさらに深い学びにも結びつくでしょう。

② 積極的なコミュニケーション

日本人は一般的に、初対面の相手への接触行動や、非言語コミュニケーションが少ないとされています。日本人同士であれば、このようなコミュニケーション方法でも意思疎通に問題が起こることは少ないかもしれません。

ただ、非言語コミュニケーションは、良好な信頼関係を築き、人間関係を良好にすることにも効果があるとされており、ビジネスでも役立つスキルです。

国際交流の場では、言葉を使ったコミュニケーションが難しくなります。だからこそ、身振り手振りをいつもより多用して、言いたいことを積極的に伝えようとするのが可能になるのです。

非言語コミュニケーションも含めて積極的なコミュニケーションを図れる国際交流は、コミュニケーションに自信がなく、「もっと積極的なコミュニケーションを図れるようになりたい」と悩む方にこそおすすめです。

③ さまざまな価値観に触れられる

価値観の大部分は、生まれ育った環境によって作られています。異なる国で育ち、自分とは異なるバックグラウンドを持つ人々と交流することで、多様な価値観に触れることが可能です。

国際交流をおこなったことで、自分の世界がぐっと広がり、日本国内での悩みや生きづらさが解消したという声も多く聞かれます。「これまで常識だと思っ

ていたことが、実は常識ではないとわかった」「全く違う価値観に触れたことで、自分の考え方も変化した」など、国際交流によって得られるものは多いです。

④ 地域社会や文化の再構築

文化や価値観の異なる人々と交流すると、自分がそれまで持っていた固定概念が覆されます。すると、外国の人々だけでなく、国内の人々に対するときにも、さまざまな考え方をより寛容に受け入れやすくなるのです。

特に姉妹都市間での交流など、地域単位での国際交流においては、異文化コミュニケーションを経験した地域住民や学生の意識改革が起きます。客観的な視点からふるさとの良さや課題を再発見でき、地域全体が異質な文化を受け入れやすくなるため、新たな視点から見た地域社会・文化の再構築にもつながっていくでしょう。

⑤ 地域特性の理解

地域レベルの交流では、「地元の祭りに参加してもらおう」など、地域固有の文化を体験・共有するような交流が可能になります。

こうしたイベントにより、地域の特性に関して、個人レベルで国外からの理解を得られるでしょう。それだけでなく、地元の参加者自身もその土地の文化を改めて理解し、地域の素晴らしさを感じることができます。

⑥ 産業・経済の活性化

地域や学校レベルの国際交流を地道に続けていくなかで、個人同士・企業同士のつながりが生まれます。その結果、お互いの分野で技術を吸収し合い、地場産業や新たなビジネスが生まれる可能性があります。

また、異なる文化から刺激を受けた個人が、地域を活性化させる原動力として活躍することもあるでしょう。

まとめ

国際交流には、個人レベル・地域レベルともに多くのメリットがあります。地域で開催される交流会に参加したり、海外旅行中や留学中に積極的に交流を図ったりして、自らの価値観を広げましょう。多様な文化や考え方に触れることで、自分が住む日本の良さを再発見したり、地域の課題を見出したりすることもできるはずです。ぜひ機会を見つけて、さまざまな国の人々とコミュニケーションを取ってみましょう。

～留学生から見た日本社会～

日本は多文化共生社会になってる？！

<https://haa.athuman.com/media/japanese/teacher/3006/>



「多文化共生社会」・・・最近よく耳にする言葉ですね。オープンなイメージで、和気あいあい、いろいろな文化背景を持つ人たちがお互いに尊重しあい、協力して、より豊かな時間を過ごす・・・などが理想的ですが、果たして日本は「多文化共生社会」になっているのでしょうか？留学生が日本社会をどう思っているかについて、お伝えします。

多文化共生社会に必要なこと

「お互いの文化を尊重する姿勢をもつ」「文化の紹介などをしあう」「相互理解のために交流の機会を多くもつ」などなど・・・このようなことが一般によく言われていますよね。日本国内のことで考えると、日本に住む外国人に習得してもらうために日本語を教える、日本の社会の習慣について伝える、ということなども、出てくるかもしれません。

実際に日本で行われていることを見渡すと、日本に来た外国人たちが日本社会にとけ込むために手助けをする、というものが多ようです。しかし、ちょっと視点を変えてみましょう。日本側の受け入れ姿勢はどうでしょうか。受け入れ態勢はできているのでしょうか。自分たちも変わる準備はできてきますか。それとも、日本側は受け入れ側なのだから自分たちが変わる必要はないのでしょうか。

多文化共生を説く際に、ゲスト（入ってくる人）とホスト（受け入れる人）両者が変わるべきだというものがあります。

留学生から見た日本社会

留学生という資格で日本に滞在する外国人には、日本の大学に入学して卒業する正規の留学生もいますし、交換留学生として半年ないしは1年間日本に滞在する短期留学生もいます。

短期の交換留学生の場合、正規の留学生とは違って日本での就職を目指してはいない場合が多いようです。自国に帰って就職するパターンです。でもそういう留学生が日本に対してどんな印象をもつかは、とても大きな意味を持ちます。

日本の理解者として自国で日本の話をしてくれれば、遠回りではあるかもしれませんが、友好関係につながるような気がします。そのような小さな架け橋がかけられていくのは、日本にとっても相手国にとっても、喜ばしいことです。彼らが過ごしやすい環境を提供できるか否かは、これからの日本にとって大切なことではないでしょうか。

留学生たちのことば

日本の大学に留学している短期留学生にインタビューをして、日本社会の受け入れ態勢についてどう思うかと訊ねてみました。

まず、アルバイトについては、「公平でよい」との見解を示してくれました。

「時給がいくらかはっきりしていて、日本人も外国人も関係なく、明瞭に決められているのが嬉しい！」との言葉が発せられました。

コンビニでのアルバイトについては、マニュアルがしっかりしていて、「決められた手順に沿って行えばいいから楽！もし間違えても、日本の人は丁寧に教えてくれる」と満足しているようでした。

一方、日本人の「ホンネとタテマエ」や「空気を読む」態度には閉口する声が多いということもお伝えしておきます。「日本人の優しさです」と解釈してくれる人もいますが、それによってがっかりさせられた経験を少なからずもっている留学生が多そうです。

例えば、日本人はすごく空気を読むから、その場ではマイナスのことを言わない。話を合わせるのが得意。例えば私が好きなアニメの話をするとうんうんわかる～！！と相槌をうつ・・・だけど、本当は全然面白がっていないみたい。目を見ればわかる。

今度どこかに食事に行こう、という話になったとき、その場ですごく盛り上がって「行こう！行こう！」となる。で、「いつにする？」と言うと、「ちょっと予定を確かめて、また連絡するね」となり、結局その話は消えてしまう。

約束をしたときも・・・その場ではとっても盛り上がり勢いにのり約束の日時を決める。・・・すると、直前にメールやラインがきて、「ごめんね・・・急用ができた。」とドタキャンされる！！このような話を何人も留学生から聞きました。

「日本人は真面目で時間や約束を守る、と聞いていたけど、個人的な約束についてはあまり信用できない」。この言葉を聞いて皆さんはどう思いますか。日本人独特のコミュニケーション方法だから仕方がない、などと言えますか？日本人は「場の空気を読む」とか「やさしいから直接断れない」という良心的な解釈をしてくれる留学生ももちろんいます。でも、その寛容さに頼ってしまってよいのでしょうか。こんな状態で、真の信頼関係は築けるのでしょうか。

「何でもほめてくれる」という話も出ました。これは、「嬉しい」「やる気が出る」とプラスの評価をしている留学生もいましたが、そうではない留学生もいました。「間違っているところについて、的確に指摘してほしい」という声も聞かれたのです。

日本語について指摘されなかったから、ずっと正しいと思って使っていたら、あるときそれは間違いだということに気づいた！ちゃんと教えてほしかった！！やさしく間違いを指摘してくれるとすごく嬉しい。はっきり注意されても、意地悪なのか親切なのかはわかる。だからはっきり言ってほしい。

議論ができない日本人

「異論」を唱えたり、「意見」を述べたりすると「批判」をしているととられてしまうと・・・そのため、しっかりと議論になりません。「同調圧力」「空気を読む」などと言った、日本社会や日本人の特性をあらわす言葉とも結びつきますが、先の留学生の言葉は、このあたりの指摘とも関連しているようです。

日本はすでに多文化社会です。様々な文化背景を持った人が、ともに生活しています。慣れ親しんでいるコミュニケーションスタイルが誰にでも通用するとは限らないということを実感する時期に私たちは来ているのかもしれない。



国際交流活動（例：滋賀県/守山市）

4. 日本の学校行事

<https://www.japanlivingguide.jp/living-in-japan/children/school-activities/>



日本では一般的な学校の行事も、海外の人から見ると珍しいものがたくさんあります。例えば入学式や始業式、運動会、授業参観日、家庭本文など。主に日本ならではの学校年間行事をまとめました。

学期制と長期休暇

日本の公立学校は4月に始まり翌年3月末までを1年間としています。学期は2学期制、3学期制の学校がありますが、現在3学期制の学校の方が多く見られます。下の図は3学期制の学校の例です。

4月～7月	1学期
7月下旬～8月下旬	夏休み：日本の公立学校では海外の学校とは異なり、夏休みにたくさんの宿題が出されます。
9月～12月	2学期
12月下旬～1月上旬	冬休み（約2週間）
1月～3月	3学期
3月下旬～4月上旬	春休み（約2週間） 春休みの後新しい学年が始まります。

日本の公立小中学校の年間行事

4月～7月（1学期）



始業式

4月、9月、1月のそれぞれの学期が始まる前に行われます。



入学式

海外では入学式や始業式が行われる学校はほとんどないため、日本独特の行事のひとつです。児童・生徒の保護者も出席します。



修学旅行

小学校は6年生で、中学校は3年生で数泊の旅行に行きます。



遠足・校外学習

日帰り以外に出かけたり、工場などへ見学に行きます。



授業参観・公開授業

保護者が子供の授業を参観します。オープンスクールは海外でも見られますが、授業の様子を保護者が見に行くというのは日本独特の学校行事です。



終業式

学期の終わりに行われる式。12月にも終業式があります。

9月～12月 (2学期)



始業式



運動会・体育祭

保護者や家族が見に行く運動会も、海外ではあまり見られない日本ならではの学校行事のひとつです。



音楽鑑賞会・演劇鑑賞会

文化を学ぶための音楽鑑賞や演劇鑑賞



学芸会・文化祭

学芸会・文化祭もあまり海外では見られず日本ならではの学校行事です。



終業式

1月～3月 (3学期)



始業式



卒業式

児童・生徒の保護者も出席します。



修了式

その他の行事



定期健康診断

学校で測定されるものと、医師が診断するものの2種類があります。

学校で測定するもの
身長、体重、視力、聴力、心電図、尿検査など（学年による）

医師が診断するもの
内科健診、歯科検診、耳鼻科健診、目の検査など
家庭訪問



全ての学校で家庭訪問があるわけではありませんが、今も多くの学校で実施されています。海外では家庭訪問がある国はほとんどないので、日本ならではの風習のひとつです。



学級懇談会・保護者会

教師と保護者が学校のことや問題などを話し合います。保護者は学校側に意見を提出することができます。



個人面談

教師と児童・生徒、教師と保護者、教師と保護者と児童・生徒など学校によって面談の方法はいくつかあります。教師と児童・生徒が個人的なことについて話し合える場になっています。

日本の公立学校で出される夏休みの宿題



日本の公立の小中学校では海外の学校と異なり、30日～40日間ある夏休みの間にたくさんの宿題が出ます。例を挙げると、算数と漢字のドリル、読書感想文、日記、絵、鍵盤ハーモニカのような楽器の練習、観察日記、自由研究など。宿題は2学期の初日に提出することになっています。



PTA とは、P=Parents(保護者)、T=Teacher(先生)、A=Association(組織)の略。子どもたちのすこやかな成長のために、親と先生だけでなく、家庭、学校、地域社会がお互いに協力し合ってさまざまな活動を行う集まりです。

その歴史は古く、日本で始まったのは 1945 年、アメリカから派遣された教育の専門家が、戦後の日本の教育について示した基本方針のひとつです。活動内容は、

- ・ 運動会や展覧会など学校行事の運営のお手伝い
- ・ バザーや模擬店など、学校や地域のイベントの運営や手伝い
- ・ 廃品やベルマークを回収して学校に必要な物を購入
- ・ 子どもの安全や防犯のための地域パトロール
- ・ 学校や PTA の広報活動 など

PTA 会費: 小学校の場合は年間 3,000 円～5,000 円前後です。家庭数で払うので、子どもが一人通っていても二人通っていても、払う金額は変わりません。年度始めに集金されることが多い



PTA 活動の予算は、会員である保護者から集めた PTA 会費によって運営されています。年度ごとに事業計画と予算を作成し、年間計画に即して会を運営し、年度末に決算を行います。

PTA は、社会教育法第 3 章第 10 条で規定される「社会教育関係団体」、＝「会員が自主・自立的に運営を行う入退会自由の任意団体」です。

PTA 本部が、保護者全員に加入か非加入かの意思を確認し、加入する保護者は入会届の提出をもって会員となり、会費を支払うのが本筋ですが、「子どもが入学

したら、保護者は自動的にその学校の PTA に入会し会費を払う」という“強制加入”の PTA も存在します。

PTA 組織の仕事内容と選出方法 ①PTA 役員



PTA 組織の「PTA 役員」は、PTA 会長、副会長、会計、庶務など、執行部的な役割を担う人です。以下、PTA 役員の役職と主な仕事内容を紹介します。

PTA 会長： PTA 組織のリーダーとして役員をとりまとめる。学校行事での挨拶、PTA 代表として地域の人や他校と交流など仕事は多岐にわたる。

PTA 副会長： 会長のサポート役。諸事情で会長不在の時に代役をつとめたり、会長と一緒に地域の人や他校との交流に出向くことも。2、3名選出される学校が多い。

庶務： 会議の時に議事録を作成し、PTA からの配布物の印刷、配布、管理などを行う。パソコン能力必須。2名選出される学校が多い。

会計： PTA 会費の集金や会計事務全般、財務管理など。お金を扱うことが得意な人向き。2名選出される学校が多い。

会計監査： PTA の会計を監査する。2名選出される学校が多い。

選出方法は、投票制、自薦、他薦制など学校によりさまざま。毎年秋から冬にかけての時期に、次年度の役員が決まります。

PTA 組織の仕事内容と選出方法 ②専門委員会



子どもたちの登下校の安全を見守る仕事もします。委員は、毎年年度始めにクラスもしくは学年ごとに自薦あるいは他薦で選出します。委員長は、前述した PTA 役員と同様、秋～冬の時期に次年度のメンバーが決まります。

学級委員会： 学級単位、学年単位の行事や保護者懇親会などの企画、開催、進行。先生と保護者のパイプ役としての役割も。

広報委員会： PTA 広報誌の企画、取材、制作、発行を行う。PTA 広報誌は年に2、3回発行する学校が多い。

企画委員会： PTA 会員や子どもたちの親睦を深めることを目的に、その学校独自で企画行事を行う際、実行委員として運営する。

教養委員会： 保護者向けの講演会や学習会、子どもの教育などについての講演会などを企画、運営する。

校外委員会： 子どもたちが安全に登下校できるために、防犯パトロールや通学路の調査などを行う。

ベルマーク委員会： 児童が回収袋でもちよったベルマークを集計し、学校に必要な備品を購入する。

選考委員会： 次期の PTA 役員を選ぶために、推薦やアンケートなどの方法で公正に行う。

PTA 役員はいつやるのが正解ですか？



PTA 役員の場合、学校に足を運ぶことが多く、PTA 活動にかなり時間を割かれるため、下に未就園児のきょうだいがいる場合は、できれば避けたほうが無難でしょう。「子どもが低学年のうち、帰宅時間が早いため PTA 役員の仕事はやりにくい」、「最高学年の 6 年生は、卒業や中学校準備などで忙しくなるので大変」という声も多く、「PTA 役員のやりどきは子どもが 3、4 年生の頃」と考えるママが多いようです。

PTA 委員は、PTA 役員と比べるとその負担はかなり軽いもの。事前に決まっている会議の時間に参加することができれば、「いつでもやりどき」です。本来できる人ができるときに、できることを活動する組織です。今年は PTA 委員を引き受けるのが無理そうだなと思ったら、「できません」と意思表示をしましょう。それを責められる必要もありませんし、罪悪感を感じる必要もありません。

PTA 活動のメリット&デメリット

■メリット

1. 知りあいが増え、さまざまな情報が入る

短時間でも他の親と話をすることで共通の話題ができたりなどで知りあいが増え、学校内外のさまざまな情報交換ができます。学校行事や先生、子どもたちの

情報はもちろん、評判のよい塾などお得な情報に出会えることも。

2. 学校の様子がよくわかる

PTA 活動で学校に足を運ぶことで、授業参観などの特別な行事ではなく、普段なかなかに目にするのでできない学校や子どもの様子がよくわかる。

3. 先生との距離が縮まる

PTA 活動を通して学校の先生と話す機会が増え、日頃の先生の苦勞や努力を垣間みることができる。コミュニケーションを重ねることで、先生との距離も縮まる。

4. 視野が広がる

学校と関わりると同時に地域のイベントや集まりなどに参加することで、地域を支えるさまざまな人との出会いがあり、仕事とはまた違った視野が広がる。



■デメリット

1. 自分の時間をとられる

仕事や家事などの時間をさいて活動することもあり、自分の時間をとられる感覚を味わうことも。PTA の会議に出るために有休を使う保護者も多くいる。■デ

2. 役職によっては仕事量が多い

PTA はボランティア活動だが、PTA 会長をはじめとする役員は仕事量が多く、これまでの生活サイクルを見直さなければいけないケースもある。

3. 人間関係がストレスになることも

年度によっては、会議や打ち合わせなどを通して、意見や価値観の違いから派閥ができたりすることもまれにあり、人間関係がストレスになることもある。

PTA は、そのあり方や活動の仕方、保護者の関わり方など、「PTA 不要論」を乗り越えて「転換期」にきています。加入、非加入はもちろん、保護者が気持ちよく参加できる組織のあり方や活動内容について考えていきたいものです。

5. 日本社会と人間関係

・本音と建前って何？

「なぜ日本人は本音と建前を使い分けるの？」と、疑問に思う人もいるでしょう。本音と建前を使い分ける国は日本だけではありませんが、日本人は特に本心を話さない傾向にあると言われていています。ここでは、日本人が本音と建前を使い分ける理由や上手な使い方を紹介します。

まず、二つの言葉の定義から、「本音」とは嘘偽りのない本心、「建前」とは相手を思いやり本心を遠回しに伝える、表向きの気持ちです。相手の立場や気持ちを思いやり、配慮する考えが浸透している日本人は、ストレートに本音で話すことを避ける傾向にあります。

そのため、ビジネスにおける交渉の場や友人同士の会話においても相手の気持ちを考え、本心話すことを避け建前を使うことが多いのです。本音と建前には相手を気遣う気持ちが込められており、日本人らしい文化といえます。



建前と嘘は異なる

本音と建前の使い分けに慣れていない人は「建前＝嘘」と考えがちですが、それは間違いです。建前は嘘と違って、相手が不愉快な気持ちにならないよう配慮するために使われます。嘘は相手を陥れたり自分が得をしたりするためにつくものなので、根本的に目的が異なるのです。また、本音と建前同様、「社交辞令」と「お世辞」も微妙にニュアンスが違います。

社交辞令は相手と良好な関係を維持するための言葉

社交辞令は、相手との関係を良好に保つために用いる言葉です。よく使われる社交辞令には「またお待ちしております」「お目にかかれて光栄です」などがあります。社交辞令は、ビジネスや政治に関するやり取り、会食などで多用される言葉です。互いに深入りせず、社交辞令をとおして良好な関係を維持します。

お世辞は相手の機嫌を取るための言葉

お世辞は相手の機嫌を取るために用いる褒め言葉です。「すごいですね」「さすがですね」などがあります。心から相手を褒めているのではなく、相手の機嫌を取っているのが「お世辞」です。また、お世辞は、相手に自分をよく思わせる意味合いもあります。

よく使われる社交辞令とお世辞を紹介



社交辞令：

「またお会いできるのを楽しみにしています。」

「前向きに検討させていただきます。」

「とても勉強になりました。」

礼儀を重んじる日本人は、このように、社交辞令は別れ際などの挨拶として使用される言葉が多いのが特徴です。相手との意思疎通をスムーズにし、良好な関係を維持できるようにします。

お世辞：抽象的な褒め言葉が多いのが特徴です。

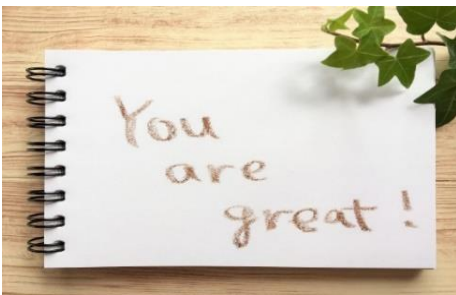
「似合っていますね。」

「さすがですね。」

「きれいですね（かっこいいですね）。」

このように、お世辞では「分かりやすい褒め言葉」を伝えるのがおすすめです。上記の言葉を言われて嫌な気持ちになる人はほとんどいません。当たり障りなく、過剰に褒め過ぎないように注意して伝えましょう。

社交辞令やお世辞を言われたら？



社交辞令やお世辞を言われたときは、挨拶程度の意味合いで捉えておきましょう。相手は深い意味で言っていないため、具体的に返答を考える必要はありません。自分も社交辞令やお世辞で返し、重く受け止め過ぎないことが大切です。

自分も社交辞令やお世辞で返す

社交辞令やお世辞を言われたときの適切な返し方は、自分も同じような言葉を使うのがスムーズです。「髪型がきれいですね」「あなたも服装がすてきですね」など、軽い言葉のキャッチボールを意識すると、コミュニケーションがスムーズに進みやすくなるでしょう。



社交辞令やお世辞は、日本人にとって重要なコミュニケーションツールの一つです。ビジネスの場や近所付き合いで頻繁に使われるやり取りです。日本人と交流する場合は、社交辞令やお世辞を使ってみると、会話が弾みやすくなるでしょう。ただし、使いどころを選び、深い意味を持たせずに話すことが大切です。

・日本人が本音と建前を使う分ける理由



人間関係を良好にするため

近年の日本は価値観の多様化が進み、さまざまな考えの人が自分の意見を主張できる社会へと変化しています。本音と建前を使い分けることは、相手との価値観を認めて尊重する姿勢の現れです。日本人は人間関係を良好に保つために、相手の心情を考えながらコミュニケーションを取っています。

場の空気を悪くするのを防ぐため

日本には本音と建前の文化が浸透しているため、場の空気を壊さないために上手く使い分ける人も多いのです。たとえば、何か頼みごとをされたときに忙しくて断りたいと思っても、「きっぱり断るのは失礼」「相手の心証を悪くするかも」と考え、建前を使ってやんわりと無理なことを伝えます。本音を伝えるのに罪悪感を持つ日本人も多く、その場を穏便に済ませるためにも建前との使い分けが

必要です。

揉め事を起こさないため

日本人は温和な性質を持ち、争いや揉め事を嫌う人が多いといわれています。そのため、たとえ自分とは合わない価値観の人であっても、本音を直接ぶつけることはあまりしません。「本音を伝えれば相手が不愉快になる」と思っているため、空気が悪くなってしまうという事態を回避しがります。「察してほしい」という気持ちが強い日本人は、同時に相手の心情を察することにも敏感といえるでしょう。

・ビジネスシーンで役立つ本音と建前の使い方



本当は無理な場合も「検討します」

日本人は本当は無理だと分かっているにもかかわらず、相手を思いやって「検討します」と伝える場合があります。特に、政治やビジネスの場において使われることが多い本音と建前です。良好な関係を維持しなければその後の業務に支障が出ると考えて、その場を丸く収めるために用いられています。日本人との会話中に「考えておく」「検討する」などの言葉が出てきたら、やんわり断られている可能性があることを覚えておきましょう。

体調が悪くても「大丈夫」

多くの日本人は学校や会社を休むことに罪悪感を感じるため、体調が悪く本心では「休みたい」と思っているにもかかわらず「大丈夫です」と建前で対応する傾向にあります。特に、日本社会では勤勉さや真面目さが評価の対象となるため、多少の体調不良なら無理して働く人も多いのです。また、プライベートでも周りに心配を掛けたくない思いから、体調が悪いのに「大丈夫」といってしまいます。具合が悪そうなのに「大丈夫」という人をそれとなく気遣ってあげると親切です。

やる気がなくても「頑張ります」

日本人は本音では「やりたくない」「面倒くさい」と思っているにもかかわらず、相手に悟られないように「頑張ります」と建前で前向きに伝える場合があります。特に必ず

やらなければならない状況の場合、本音を出してしまうと「愚痴」になるため、相手からの印象が悪くなったり、周りの士気を下げたりしかねません。相手から見た自分の印象や場の雰囲気を考えて、上手く本音と建前を使い分け、空気を明るく保とうとする日本人は多くいます。

自分に非がなくても「すみません」

日本人は自分に非がない状況であっても、反射的に「すみません」「ごめんなさい」など謝罪を口にすることがあります。日本人には「迷惑を掛けるのも、掛けられるのもお互い様」という精神が根づいているため、トラブルがあっても双方が謝罪して話を丸く収めることが一般的です。揉め事や相手を責め立てるのを嫌い、穏便に済ませようとする本音と建前の使い方は、日本人特有の性質といえるでしょう。

迷惑と思っけていても「ありがとう」

日本人は、心からありがたいと感じなくても「ありがとう」と伝えることがあります。「ありがとう」は感謝を伝える言葉として、海外でも有名な日本語です。しかし、ありがとうという言葉に「ありがたいけれど、本心は迷惑」という感情が隠れている場面もあります。日本ではこのような状態を「ありがた迷惑」といいます。たとえば、人から必要以上にお節介を焼かれたり、不要な品物を贈られたりすると、本心では迷惑と感じるでしょう。このようなときに、迷惑だと感じる本音はあっても「ありがとう」と感謝だけを建前として伝えることがあります。

・本音と建前を使い分ける日本人との上手な接し方



本音と建前は日本人が良好な人間関係を築くために必要不可欠な気遣いと考えられると、会話の節々から繊細な心配りを感じられます。無理に本音での対話を強要せず、建前を嘘と捉えないで、どういった気持ちを伝えたいのか考えると、コミュニケーションもスムーズになります。とはいえ、「本音と建前」を強要するわけではないので、異国の地でも自分らしさを見失わない事はとても重要です。